

Q 本学を受験しようと思ったきっかけ

- 私が研究したかったテーマであるメディアアートの研究室があり、立地も良かったからです。(J)
- 高専からの推薦入試があり、また研究室見学を通して自分のやりたい研究と合致していたためです。(J)
- 人工知能の研究がしたかったため、この分野に注力している本学を選びました。(I)
- コグニティブ無線の研究があり、無線通信の研究が最も盛んな大学のうちの1つだと思ったからです。(I)
- 機械学習、統計学の研究をしたいと考え、他大学の学生も受け入れる研究室があったので受験しました。(I)
- 高専で学んだ電子情報の知識・能力を活かし、航空宇宙分野に携わる研究をしたいと考えたからです。(I)
- 風洞設備を有する研究室があり、学内へ訪問するたびに学生との会話から受験しようと思いました。(M)
- 博士後期課程への進学を考えており、学費が安く、研究のレベルも高い大学へ進学したかったからです。(M)
- 6月のオープンラボに行った際に、自分の興味ある研究を行うことができると確信したためです。(S)
- スピン系の研究をしようと思った時に、研究室の助教の方に紹介してもらったのがきっかけです。(S)

Q 受験対策や準備について

- 受験を決めた段階ですぐにTOEICを受けました。必ず過去問を解き、出題範囲を広くカバーできるように多くの教科書・参考書に目を通すことが大事です。(J)
- 面接対策の中でも自分の今の研究について、今までの内容とこれから行うことを整理しておくこと。(J)
- 面接時にアピールできるよう、研究実績をつくっておいたほうが良いと思います。(J)
- 学部のシラバスを探し、同じ教科書で勉強しました。(I)
- 研究をしているのであれば意欲的に取り組み、自身の研究を他人にわかりやすく説明できると良いと思います。(I)
- 専門科目において、機械系の必須科目である4力学は万遍なく勉強しておくことをお勧めします。(M)
- 過去問を3回は解き、わからない問題があるときは友人や大学の先生などに質問し、できない問題を減らしました。市販の問題集を解くこともお勧めします。(M)
- 大学1、2年で勉強するような基礎(古典力学、電磁気学、線形代数、解析など)を固めておくと、独学で勉強しなければならない状況でも、十分進めることができます。(S)
- 自分の研究テーマと内容について、研究の意義や将来性までしっかり話せると良いと思います。(S)

Q 研究室見学について

- 不安を取り除いてもらえるような環境づくりがされている印象を受けました。(J)
- 何よりフレンドリーな雰囲気がとても良く感じられ、この研究室に入りたいと思いました。(J)
- それぞれの研究に取り組む姿勢から、研究室メンバーのその分野に対する熱意が感じ取れました。(J)
- オープンラボで研究室を見ることができたため、入学後のイメージが付きやすくなり、受験勉強に張り合いができました。外部からの受入がある点も安心しました。(I)
- 知らなかった研究や自分のやりたいと思える研究をたくさん知ることができ、選択の幅を広げられました。(I)
- 入試対策についても相談できたのは大きく、その後の勉強に活かすことができました。(M)
- 他の大学も多数見学しましたが、電通大は外部の人を受け入れる体制が整っているため、説明が丁寧でした。(M)
- 研究設備が整い、研究テーマも新規性に重点をおいている印象を受けました。先生方のお話も大変興味深いものでした。(S)
- 電通大の研究水準は、学部生のときに自分が行っていたものよりとても高いと感じました。(S)

Q 大学院生活に向けての期待

- 新たな環境に戸惑うことがあるかもしれませんが、これまでの経験を活かしてそれを乗り越え、自らの将来に向け熱心に研究に取り組んでいきたいと思っています。(J)
- 2年間と短いのでやり残すことなく全力で臨みたいと思います。(J)
- 学業と生活のバランスをとって、楽しい大学院生活を過ごしたいと思います。(J)
- もっと知識を吸収したい。未来には傑出した研究者になるように。(I)
- あらゆる方向から成長できるだろうと思っています。(I)
- 学会発表や企業との共同研究ができるように集中していきたいと思っています。(I)
- 新しい環境において自分の知識や思考力を高めることができるか、とても楽しみです。(M)
- 新しくできる研究室の仲間たちと楽しく研究に励んでいきたいです。(M)
- 研究に対してストイックに向き合いたい。(M)
- せっかく入学を許可されたので、設備・環境を十分に使って、少しでも自分の能力を高めていきたい。(S)
- 自分の就職先や夢などを見つけていきたい。(S)

※入学者アンケートより抜粋

電通大大学院を志望した動機は?

受験準備はどのようにしたの?

Advice for you

学外から電通大大学院をめざす方へ

受験準備から研究への取り組みまで
現役院生からのメッセージ

どのような研究をしているの?

大学院生活への期待は?

電通大大学院をめざす方へのアドバイスは?

このリーフレットは学生の体験と感想に基づいたエピソードをまとめています。受験対策などは各自でしっかりと行ってください。



情報学(J)専攻

学びの環境に恵まれていることを実感しています。
進学を考えているならまずは行動に移すことが大事

メディア情報学プログラム 博士前期課程1年 男子
立命館大学情報理工学部メディア情報学科出身

まず最初に、学費的な問題から国立大学への進学を考えました。その中で、自分が現在興味のある研究を行うことができ、その研究に対して積極的に活動していくことができる



(田野研究室)

大学、及びに研究室を探した結果、電通大大学院への進学を志望するに至りました。

現在は田野研究室で、ARやVRにおけるドローンを用いた3Dインタラクションについての研究に取り組んでいます。本大学院には、アイデアを形にする経験や最新の知識を獲得することができる環境が豊富にあります。また、周囲には自分の知らない知識を大量に持っている人が多く、良い刺激を得られています。

当初は他大学から電通大の大学院へ進学することに不安もありましたが、実際に入学してみると学びの環境に恵まれていることを実感でき、とても満足しています。電通大への進学に興味があるのであれば、まずは説明会への参加や研究室への訪問など、実際に行動してみることが大切だと思います。

学びたい研究室があったことが進学の動機です。
モチベーションを高め合える環境で研究に適進

経営・社会情報学プログラム 博士前期課程1年 男子
法政大学情報科学部コンピュータ科学科出身

大学では機械学習を用いた自動運転についての研究を行っていました。その中で運転するドライバーの心理的な側面から対策・支援をする研究を行いたいと思うようになり、それを研究できる場所を探し、電通大大学院に進学しました。



(田中(健)研究室)

現在、所属している研究室では、高齢ドライバーが安全な運転をするための支援方法について研究しています。

学科試験の対策としては募集要項と過去問を確認し、出題される内容を把握。私の場合は学部で学んでいない範囲もあったので、その部分は電通大で使われている教科書を調べ、同じ教科書で学習しました。面接の対策については、事前に行きたい研究室の研究内容をサイトや論文などで確認し、自分がやりたい研究についてより考えてから望むことを心掛けました。

電通大の一番の良さは研究設備が整っていることはもちろん、教授や研究員、学生もそれぞれ研究に対する熱意があり、研究へのモチベーションを互いに高め合えることです。

機械知能システム学(M)専攻

スポーツ流体を研究するには
絶好の環境があると感じ、電通大への進学を決意

機械システムプログラム 博士前期課程1年 男子
東京都市大学工学部機械工学科出身

私が電通大の大学院を志望した理由は、スポーツ流体に興味があり研究を行いたいと考えていたからです。

大学では流体力学を学び、学部3年の時に参加したインターン



(宮寄研究室)

シップでは、電通大大学院の講義内容が高度であるという話を耳にしました。ここに進学すれば高度な専門知識と研究に対する幅広い能力が身につけられる。そう思い、進学を決断しました。

私の所属している宮寄研究室では、あらゆる流体運動に伴う物質・エネルギーの輸送現象を実験や数値シミュレーションを用いて研究しています。周りの研究機関とのつながりが強く、多くの共同研究が行われています。そして、研究に関して一人一人の責任が大きく、日々やりがいを感じています。

電通大でやりたいことがあるのならば挑戦することを強くおすすめします。自らの意思で新しい環境に飛び込んでいくことは良い経験になると思います。無論、電通大の研究室は外部からの学生も多く、過ごしにくいと感じることはありません。

理系が集まる環境は刺激的で楽しい。
電通大には研究に真剣に取り組める環境があります

先端ロボティクスプログラム 博士前期課程1年 男子
中央大学理工学部精密機械工学科出身

大学院では医療分野とロボットが融合した分野を勉強、研究をしたいと思い、電通大の大学院に進学することにしました。

学部とは違う研究や違う環境に身を置くこ



(小泉(憲)研究室)

とはとても新鮮で、新しいことへの好奇心でいっぱいでした。オープンラボに足を運んだ際は、様々な研究室を見学することができたので、取り組みたい研究がより明確になりました。

私は医療分野とロボット、人工知能、画像処理を融合した小泉(憲)研究室に所属しています。研究内容は在宅でも診断できる小型超音波ロボットの開発です。

電通大はThe理系の人が集った大学で、滅多に味わえない環境で生活することは刺激的で楽しく、その点が素晴らしい良さだと考えています。

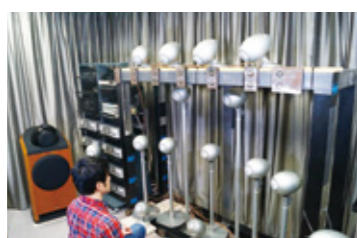
環境を変えることに不安を抱える人も多いと思います。私もそうでした。しかし、電通大で過ごした一年間は想像以上に刺激的で、研究にも真剣に取り組める環境だと思いました。

情報・ネットワーク工学(I)専攻

電通大には幅広い研究分野と
それらを支える基盤技術があります

電子情報学プログラム 博士前期課程1年 男子
茨城大学工学部メディア通信工学科出身

私はもともと高専出身だったため、大学への編入を経験しています。その際は、計画性のない編入試験勉強をしてしまったので、大学院入試では、大学院の研究室に関する調査



(高橋(弘)研究室)

をしっかり行うことを決心しました。電通大を志望したのは、研究室見学で訪れた高橋弘太研究室の研究テーマが、興味のある音響の研究であることに魅力を感じたことがきっかけです。

私の所属する研究室では、音のミキシングの自動化を目的として、「スマートミキサー」を開発しています。電通大は工学系の大学の中でも、創造と創作を行う環境が整っています。学内のものづくりセンターには、ポール盤やフライス盤といった機械工作機から、電子工作には欠かせないんだ室、3Dプリンタ、基板加工機などが揃い、電通大の学生・院生は自由に使用することができます。個人ではなかなか作ることの出来ない大掛かりな工作も行うことができ、学生時代から無料でこれらの機械を利用できるのは大きな財産だと感じています。

実際に研究室を訪ね、雰囲気を経験した後に決断。
電通大は講義の種類が幅広いのが魅力です

コンピュータサイエンスプログラム 博士前期課程1年 男子
長岡技術科学大学工学部電気電子情報工学科出身

まず、電通大が提供している研究室を検索するシステムから大学時代に自分が行っていた研究に関連するワードを検索し、研究室を選びました。その後、研究室見学を行い、先生と話も進みました。その際に研究室に所属する学生とも話をすることができ、院から移動した身でも快く受け入れてくれそのような期待が持て、電通大への外部進学を決心しました。



(沼尾研究室)

私の研究テーマは、WiFiの位相情報を用いた位置推定や行動認識の研究です。研究室では、介護施設向け見守りビッグデータ活用システムの開発に向けて研究を進めています。

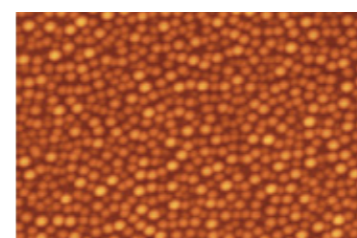
電通大は新宿から近く、カンファレンスにも参加しやすい立地です。企業にもよりますが、就職活動で都心に行く際も他県の大学より活動しやすいと思います。また、大学院での講義の種類が豊富でたくさん履修することができるため、自分の興味のある分野の教養をさらに深めることができます。実践的な演習を通して肌で学べるのも電通大の良い点だと感じています。

基盤理工学(S)専攻

電通大は実践的な研究を行える大学です。
研究生活のビジョンを描くなら、まず研究室見学を

電子工学プログラム 博士前期課程1年 男子
仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻出身

昔からトランジスタなどの電子部品が好きで、早い段階から専門的な勉強がしたく高専に進学しました。国立の大学院でより専門的な研究体験を試してみたくなり、大学院進学を考えていたところ、出身高専で電通大の評判を聞き、興味を持ったのが電通大進学のかっけです。



(山口研究室)

現在、私は半導体量子ドットの作成に関する研究を行っています。大学院では研究が主体ですが、授業の内容もおもしろいものが多く、基礎から応用まで幅広く学習できる点も非常に良いと思います。電通大の学生には単科大学ならではの一体感があると思いました。

大学の研究だけでは物足りない、もっと深く専門的な研究をしたいと考えている方には、電通大をおすすめします。研究室見学の際には、質問したい内容などをリストアップし、聞きたい内容をすべて聞けるよう準備していくとよいと思います。研究室では学生にも会い、雰囲気を感じ取ってください。

のびのびと実験を行える環境があり、
共同研究や世界を視野に入れた研究なども多彩です

化学生命工学プログラム 博士前期課程1年 女子
早稲田大学先進理工学部化学・生命化学科出身

実家から通える国立大学にある化学生物系の研究室の中で、修士の学生でも自由に研究でき、私を一番歓迎していただけたことから現在所属している瀧研究室を志望しました。



(瀧研究室)

ここでは、創薬システムの開発に取り組んでいます。

電通大の素晴らしい点は、第一に1人当たりのスペースが広いことが挙げられます。学部生であっても十分に自分のスペースが確保され、のびのびと実験を行うことができます。海外に留学する学生や、学外との共同研究に取り組む研究室も多く、世界で戦えるおもしろい研究をしようという雰囲気が魅力的です。また、交通の便が良く駅から近いため通学もラクです。

院生はほとんどの時間を研究に費やすことになるので、進学先を選択する際は、大学そのものよりも研究室単位で選ぶべきだと思います。もちろん研究内容も重要ですが、それ以上に、メンバーや雰囲気、研究環境に注目してなるべく多くの研究室を見学し、自分に合った研究室を見つけてください。